



2024年7月31日
東日本旅客鉄道株式会社
盛岡支社

観光列車「ひなび(陽旅)」×伝統工芸品装飾 ～第三弾～ 花巻市伝統工芸品「成島和紙」うちわ 「南部鉄器」うちわ立て・風鈴の装飾で車内を彩ります！

観光列車「ひなび(陽旅)」車内に伝統工芸品装飾を飾り、お客さまに楽しんでいただく企画の第三弾を実施します。

2024年8月～9月は花巻市伝統工芸品「成島和紙」で創作したうちわのほか、南部鉄器のうちわ立て、南部鉄器の風鈴の装飾で「ひなび(陽旅)」の車内を涼しげに彩ります。「成島和紙」のうちわは、JR東日本盛岡支社の社員も協力して染色し、手作りしたものととなります。

ぜひ、うちわを手にとっていただき、「ひなび(陽旅)」の車内で夏の風情をお楽しみください。

1 実施期間

2024年8月3日(土)、4日(日)、10日(土)、11日(日)、12日(月・祝)、13日(火)、14日(水)、15日(木)
8月17日(土)、18日(日)、24日(土)、25日(日)、31日(土)
9月1日(日)、14日(土)、15日(日)、16日(月・祝)、21日(土)、22日(日)、23日(月・祝)
9月28日(土) 計21日

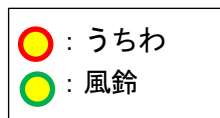
2 運行区間

東北本線盛岡駅～花巻駅間 / 釜石線花巻駅～釜石駅間 / 山田線盛岡駅～宮古駅間
※9月28日(土)は三陸鉄道リアス線宮古駅～釜石駅間でも実施

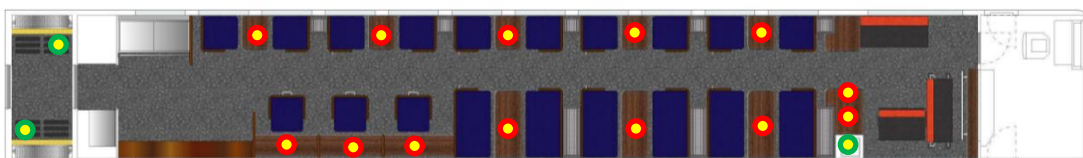
3 車内設置箇所

うちわ：1号車(グリーン席)各テーブル

風鈴：1号車展望室、出入り口 2号車(指定席)展望室、出入り口



1号車(グリーン車)



2号車(指定席)



※車内設置箇所は変更になる場合がございます。

【参考】

■「成島和紙」について

- 岩手県花巻市東和町で生産されている和紙。特徴としてクワ科の楮（こうぞ）の皮を原料とし、「ノリウツギ（アジサイ科）」の粘りを混ぜ合わせて作られます。
- 東和町成島地区で和紙の製造が始められたのは寛文元年（1661年）以前とされ、350年以上の歴史があり、藩政時代には盛岡藩の御用紙として広く愛用されました。
- 花巻市指定無形文化財として、現在は成島和紙生産組合がその技法を受け継いでいます。成島和紙工芸館では紙漉き体験を行うことができます。

■鉄鑄物・南部鉄器について

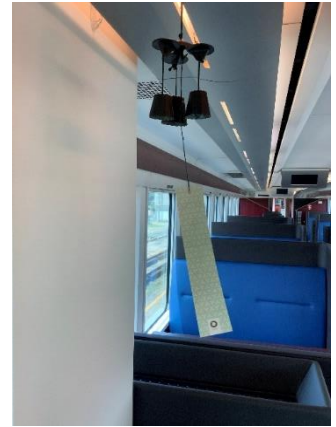
- 奥州市水沢の鉄鑄物・南部鉄器の起源は約900年前（1090年頃）平安時代末期。藤原清衡氏が近江国（現在の滋賀県）から鑄物師を呼び寄せたのが始まりと言われています。鑄物づくりに必要な鉄・木炭・砂・粘土に恵まれていたこともあり、この地で鑄物業が発展しました。
- 鉄鑄物は、鮮やかなだいたい色に溶けた鉄を砂で作った型に流し込み、温度が下がり固まったら砂型を崩してできあがるもの。型の砂の粒子が、固まった鉄の表面にそのまま映しだされた、「鑄肌の美しさ」と、規則的ではない涼を感じさせる「ちりん」という風鈴の音色を、是非五感で愉しんで下さい。



成島和紙「うちわ」の創作に携わった社員



「うちわ」「うちわ立て」
(イメージ)



風鈴 (イメージ)

※ 写真は全てイメージです。

※ この情報は2024年7月現在の情報です。